

千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録

第 7 号（令和 7 年 3 月）

○ 本号での変更

本号で行う変更は、次の 3 種です。詳細については次ページ以降を御覧下さい。

種名	変更内容	変更理由
ユノミネシダ	Aとして新規追加	県内からあらたに発見された。
イブキシダ	X→Aへカテゴリー変更	県内からあらたに発見された。
ミズニラ	Bとして新規追加	個体数や生育地の減少が懸念される。

○ 本追録の位置づけ

千葉県では、保護すべき貴重な野生生物のリストである「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—」及び「千葉県レッドリスト」をおおむね 5 年の間隔で発行してきました。しかし、毎年のように未記録の野生植物の発見が報告され、5 年の間隔では緊急時に対応できないことが明らかとなってきました。そこで平成 22 年度から、年一回、レッドデータブック・レッドリスト掲載種の追加、ランク変更、削除等を行い、追録として公表しています。

本追録は、緊急を要する絶滅危惧生物のランクの改訂等を掲載し、広く県民に最新の情報を伝えることを目的としています。このため、冊子体のほかインターネットによる公開を行っています。

○ レッドデータランク等について

本冊子でランク変更、追加、削除がなされた種については、本冊子の記述が優先し、以前に発行された「千葉県レッドデータブック」及び「千葉県レッドリスト」の記述は無効となります。

千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録第 7 号（令和 7 年 3 月）
2025 年 3 月発行
編集 千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会
発行 千葉県環境生活部自然保護課 〒260-8667 千葉市中央区市場町1 番1 号
電話 043-265-3601 / ファックス 043-265-3615（千葉県生物多様性センター）
URL <http://www.bdcchiba.jp/>

A ユノミネシダ コバノイシカグマ科

新規掲載

2009	-
2017	-
2023	-

Histiopteris incisa (Thunb.) J. Sm.

【種の特性】常緑性。根茎は長く這う。葉身は2回羽状復生～3回羽状全裂で、最大2 m以上になる。孢子嚢群は葉の辺縁が反転した偽包膜に覆われる。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球列島・小笠原諸島。世界の熱帯・亜熱帯、南半球の温帯。

【県内の状況】2021年に南房総市で複数地点で幼株が確認された。その後、当初発見された株の多くは消失しているが、2023年には新たに孢子葉を付けた株が発見された。

【保護対策】尾根に近い攪乱地に生じているため、保護は難しい。

【文献】海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ：366/岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：106/シダ会報4(37):1-2.

【写真】2023年 南房総市/館野 太一



【掲載理由】

県内での新規発見であり、国内分布では東限にあたるため、分布的にも貴重である。本種は、尾根沿いの攪乱地という特殊な環境に生育しており、生育環境の保全が難しく、個体の消失の動向に留意すべき種であることから、新規掲載することとした。

（館野 太一）

A イブキシダ ヒメシダ科

カテゴリー変更

2009	X
2017	X
2023	X

Thelypteris esquirolii (H.Christ) Ching

【種の特性】林床や溪流沿いなどに生育する常緑性シダ。葉身下部で羽片が痕跡的に短縮する点、羽片基部に通気孔と呼ばれる突起がある点で同属の他種とは区別が容易である。

【分布】本州（栃木県以南）、四国、九州、琉球列島。朝鮮、中国、台湾、南アジア。

【県内の状況】千葉県では、千葉市若葉区で発見されたのが最初である。現地は1998年に土地開発によって失われ、以降本種は県内では絶滅種とされていた。しかし、2024年10月、鴨川市で葉の全長が1.4 mに達する大型個体の生育が確認された（シダ会報）。現時点では、この1地点の他に知られていない。

【保護対策】本種が生育可能な環境を保全することが望ましい。静岡県以西では珍しい種類ではないことから、今後も新たに産地が発見される可能性がある。

【文献】海老原 2016日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ：439 /シダ会報 4(48): 12-13.

【写真】2024年鴨川市/荒井 智貴



【掲載理由】かつて千葉市内の谷津に生育が知られていたが、1998年に土地開発のために消失し、県内では絶滅したと考えられていたが、2024年10月に鴨川市で新たに生育地が確認されたことから、ランクの変更を行うものである。

（荒井 智貴）

2009	-
2017	-
2023	-

Isoetes japonica A.Braun

【種の特性】鮮緑色でやわらかい夏緑性。ニラのような細長い葉を持ち、水中に生える。塊茎は直径2～3cmで、葉は15～30cm、4稜のある円柱状で、先端はしだいに細くなる。大孢子と小孢子を生じる。

【分布】本州、四国、朝鮮半島。

【県内の状況】かつては県内各地に広く分布していたが、土地造成のほか、富栄養化などにより、生育地が減少している。

【保護対策】生育環境の多くは水田などであり、土地造成などによる生育環境の改変のほか、除草剤の使用、水の富栄養化などが生育に大きな影響をもたらす。他の湿地植物と併せてを保護することが望まれる。

【文献】千植誌 2003:4/海老原 2016 日本産シダ植物標準図鑑 1:280/岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ:56.

【写真】2013年 佐倉市/木村 研一

【掲載理由】

県内における生育記録等はいくつかあるが、近年の記録が少なく、生育地の減少が懸念されることから、新規掲載することとした。



(水野 大樹)

千葉県の上重要な野生生物 分類群・カテゴリー別掲載種数

(令和7年3月)

*本追録により、追録6号(2024年3月発行・2024年8月改訂)より変更となった箇所を赤字で示した。

[動物]

カテゴリー		消息不明 ・絶滅生物 (X)	最重要 保護生物 (A)	重要保護 生物 (B)	要保護 生物 (C)	一般保護生物 (D)	総計	(参考) 情報不足
脊椎動物	哺乳類	3		4	4	6	17	2
	鳥類	20	46	38	33	19	156	
	両生類・爬虫類		6	7	4	6	23	1
	魚類	2	5	9	8	5	29	
脊椎動物 小計		25	57	58	49	36	225	3
無脊椎動物 (昆虫類)	カゲロウ目		2			3	5	
	トンボ目	7	19	13	6	9	54	
	カワゲラ目		1			1	2	
	ゴキブリ目					1	1	
	カマキリ目				1	1	2	1
	バッタ目	1	7	4	3	5	20	4
	ナナフシ目				0	1	1	
	カメムシ目	1	10	5	13	6	35	
	アミメカゲロウ目			1	1		2	
	コウチュウ目	3	50	48	42	15	158	
	ハチ目		6	8	18		32	
	シリアゲムシ目			1	3	1	5	
	ハエ目	6	5	10	4	4	29	
	トビケラ目	1	2	2	5	4	14	
チョウ目(チョウ類)	5	4	9	16	0	34		
チョウ目(ガ類)	2	1	4	7	2	16	3	
無脊椎動物(昆虫類) 小計		26	107	105	119	53	410	8
無脊椎動物 (昆虫類以外)	クモ類		3	3	2	2	10	
	甲殻類	0	14	3	7	12	36	1
	多足類	3	14	12	7	1	37	
	貝類	17	90	57	28	14	206	
無脊椎動物(昆虫類以外) 小計		20	121	75	44	29	289	1
合計		71	285	238	212	118	924	12

[植物・菌類]

カテゴリー		消息不明 ・絶滅生物 (X)	野生絶滅生物 (EW)	最重要保護 生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	保護参考生物 (RH)	総計
植物	シダ植物	7	0	43	28	34	10	17	139
	種子植物	53	4	179	237	135	148	13	769
	蘚苔類	14	1	20	30	6	11	0	82
	藻類	10	3	21	8	2	0	0	44
植物 小計		84	8	263	303	177	169	30	1,034
菌類	地衣類	8	0	25	16	11	20	0	80
	大型菌類	0	0	2	9	15	14	0	40
菌類 小計		8	0	27	25	26	34	0	120
合計		92	8	290	328	203	203	30	1,154